

氏名	森 末 佳 子
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第3742号
学位授与の日付	平成14年6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	抗原捕捉免疫測定法による抗アジアロ糖タンパク質受容体抗体の検出:自己免疫性肝疾患における臨床的意義
論文審査委員	教授 中山 睿一 教授 谷本 光音 教授 小出 典男

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

我々は、自己免疫性肝炎における標的抗原の一つとして注目されているアジアロ糖タンパク質受容体 (asialoglycoprotein receptor; ASGPR) に対する抗体を測定する捕捉免疫測定法を開発し、代表的な自己免疫性肝疾患である自己免疫性肝炎と原発性胆汁性肝硬変患者血清中には、高率に抗 ASGPR 抗体が検出されることを明らかにした。本研究では、自己免疫性肝疾患における抗 ASGPR 抗体測定の臨床的意義を明らかにするため、抗 ASGPR 抗体と臨床検査データ、病期、病勢との関連、また、そのアイソタイプについて解析した。自己免疫性肝炎では、抗 ASGPR 抗体値と γ -グロブリン、IgM 値との間に有意な正の相関を認めた。肝生検組織所見で piecemeal necrosis を有する活動期患者では、寛解期患者に比べ抗 ASGPR 抗体値の有意な上昇が認められ、抗 ASGPR 抗体値は門脈域の炎症、門脈域周囲の肝細胞壊死など組織学的活動性をよく反映しているものと考えられた。抗 ASGPR 抗体のアイソタイプの検討では、活動期患者で上昇が観察される抗体のアイソタイプは主に IgM であり、ステロイド治療により寛解になると、IgM 型抗体が減少する症例を認めた。以上から、IgM 型抗 ASGPR 抗体は、自己免疫性肝炎の活動性、治療効果の評価に有用である可能性があるものと思われた。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、自己免疫性肝疾患患者血清中の抗アジアロ糖タンパク質受容体 (ASGPR) 抗体を抗体捕捉免疫測定法により検討したものである。その結果、自己免疫性肝炎では、抗 ASGPR 抗体価、特に、IgM 抗体価が病勢と関連が強いことを明らかにした。この知見は、自己免疫性肝疾患の病態解明に重要であり、価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。